

災害時の緊急連絡カードの作成と実際

(医)清陽会ながけクリニック

**○鈴木小由紀(すずきこゆき)、門崎弘樹、
田淵裕哉、渡邊智子、松本和広、長宅芳男**

背景

- 平成30年7月の西日本大豪雨で、岡山県でも浸水や土砂災害が発生し、被災した病院では多くの患者が他施設で透析をおこなうこととなった。被災時は、依頼先の施設へ正確かつ迅速な情報提供が必要だが、電話の不通や停電による電子カルテやパソコンの使用不能な場合に、紙媒体のアナログな方法が有効な事もある。

目的

- 災害対策の一環として、災害時に当院での透析が困難な場合、受け入れ先の病院にスムーズな情報提供ができない時でも最低限の情報(治療方法、時間、透析膜、DW、アレルギー等)を伝えられるように、携帯可能なカードサイズの「緊急連絡カード」を開院以来活用してきたが、年に数回程度の更新しかしておらず、積極的な声掛けも行っていなかった。そこで、平成30年7月の災害を機に、意識向上への対策とカードの更新率を上げるための工夫を行ったので報告する。

方法

全患者94名に対し、

- ①年に数回程度の更新と、積極的な声掛けもしていなかったカードの更新率の現状把握を行った。
- ②次に月末にスタッフからの更新の声掛け、更新の案内配布、災害意識の向上のため院内広報誌へ災害関係の記事掲載し変化を検討した。
- ③新たな取り組みとして、カード回収BOXとメッセージボードの設置、災害時伝言ダイヤル訓練を行い更新率の変化を検討した。

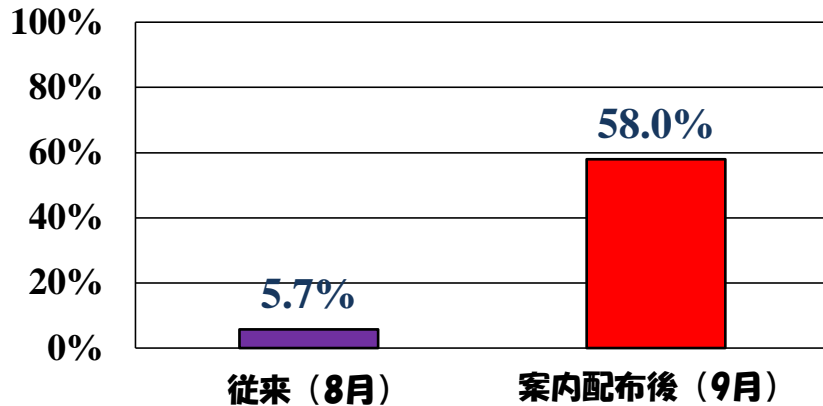
最後に、今回の試みにより透析患者の災害意識の変化について聞き取りを行い、カード内容の改善を検討した。

月別のカード更新率向上のための取り組み

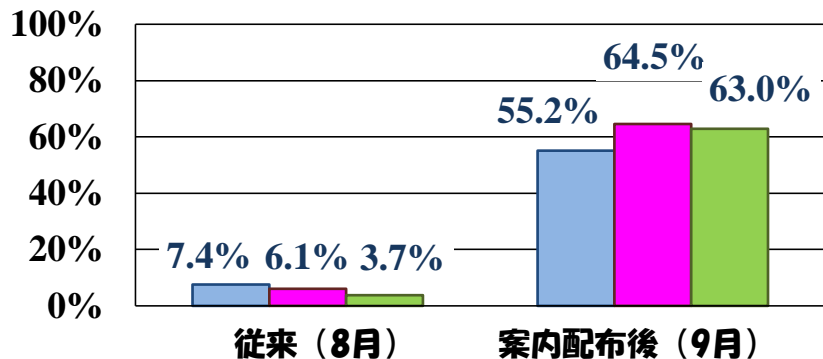
2018年 8月	現状把握のため、今まで通り。	2019年	12月末にカード回収用のBOXとメッセージボードの設置。 月初めの災害時伝言ダイヤルに更新協力のメッセージを盛り込む。
9月	8月中旬に更新の案内配布、 院内広報誌へ記事掲載 月末にスタッフから更新の声掛け。	1月	月末にスタッフから更新の声掛け。
10月	月末にスタッフから更新の声掛け。	2月	カード回収用のBOX配置。 月初めの災害時伝言ダイヤルに更新協力のメッセージ。
11月	月末にスタッフから更新の声掛け。	3月	カード回収用のBOX配置。 月初めの災害時伝言ダイヤルに更新協力のメッセージ。
12月	月末にスタッフから更新の声掛け。	4月	カード回収用のBOX配置。 月初めの災害時伝言ダイヤルに更新協力のメッセージ。

案内配布後の変化

更新率 全体



透析クール別 更新率

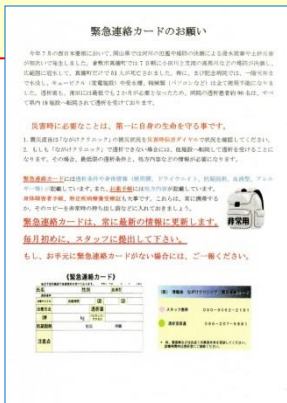


■ 月水金AM ■ 月水金PM ■ 火木土

従来 (8月) と、院内広報誌への災害関係記事掲載、スタッフからの声掛け & 案内配布後 (9月) における更新率の比較を行った。

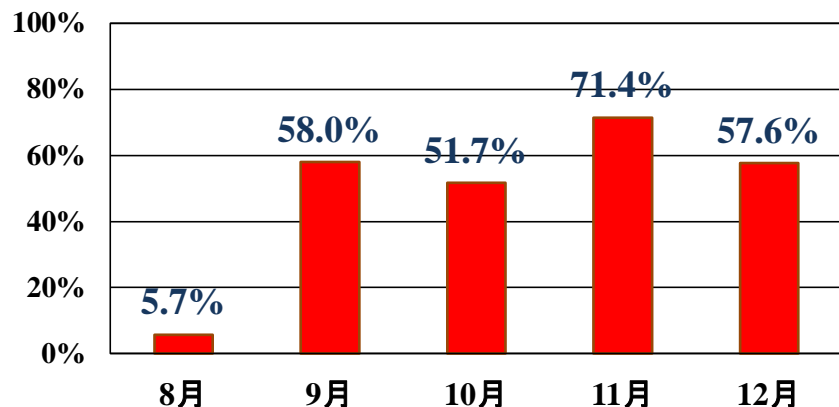
従来 (8月) では、5.7%であった。スタッフからの声掛け & 更新の案内配布後 (9月) は、58.0%と増加していた。

また、透析クール別の更新率では、大きな差はみられなかった。

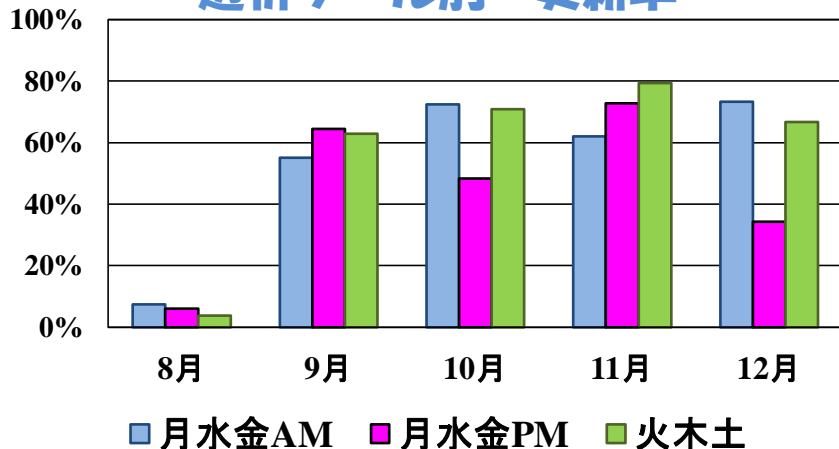


案内配布後の更新率の推移

更新率 全体



透析クール別 更新率



案内配布後

9月～12月までの更新率の比較を行った。

全体の更新率は、各月50%台であった。11月の更新率が70%台と上がっているが、これはカード紛失による再発行(13.8%)分を含むためであった。

また、透析クール別の更新率では、更新の案内配布の翌月から、夜間透析が主体で比較的若年者が多い月水金PMの更新率が他のクールより低い結果であった。そのような患者では、「災害なんてめったに来ない。」「毎月の更新なのか。」との意見があった。

新たな取り組みとして 回収BOX & メッセージカードの設置



体重計



更衣室

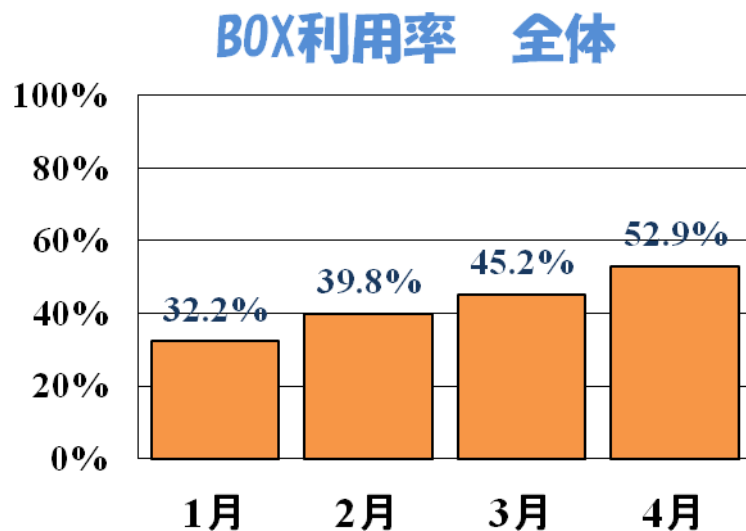
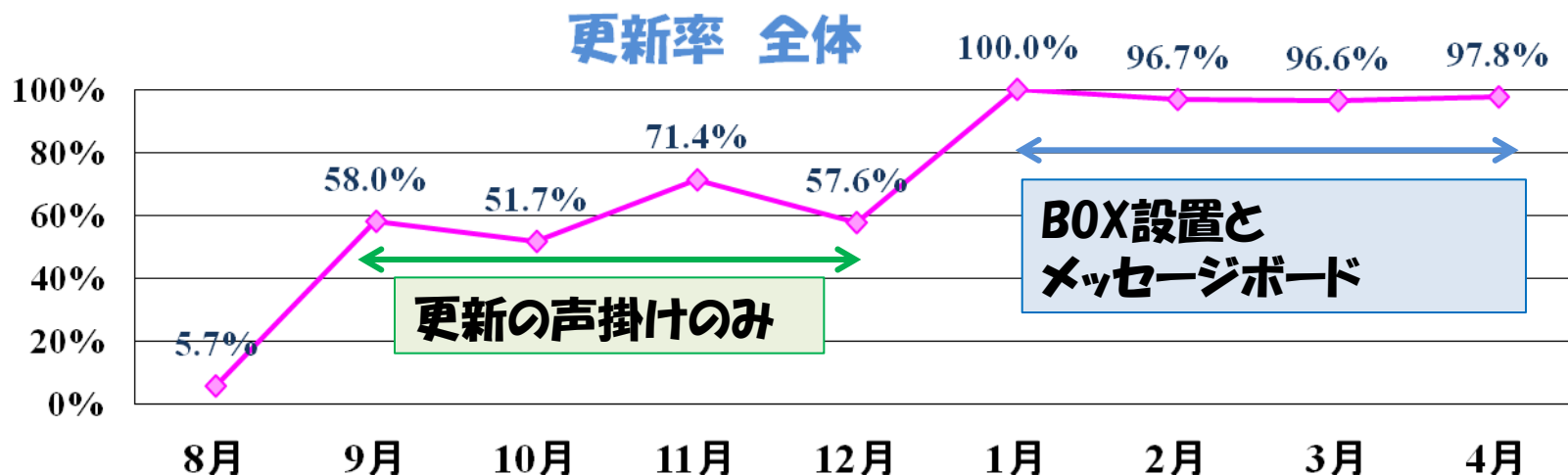
伝言ダイヤル使用説明



回収BOXと
メッセージボード

スタッフの声掛けだけでは更新率が50%台から上昇しないため、1月からの新たな取り組みとして、カード確認日の4日前から更衣室と体重計付近にメッセージボードと緊急連絡カード入れ(回収BOX)を設置した。また、災害伝言ダイヤル訓練へカード更新協力のメッセージを追加し、伝言ダイヤルの使用方法の説明も行った。

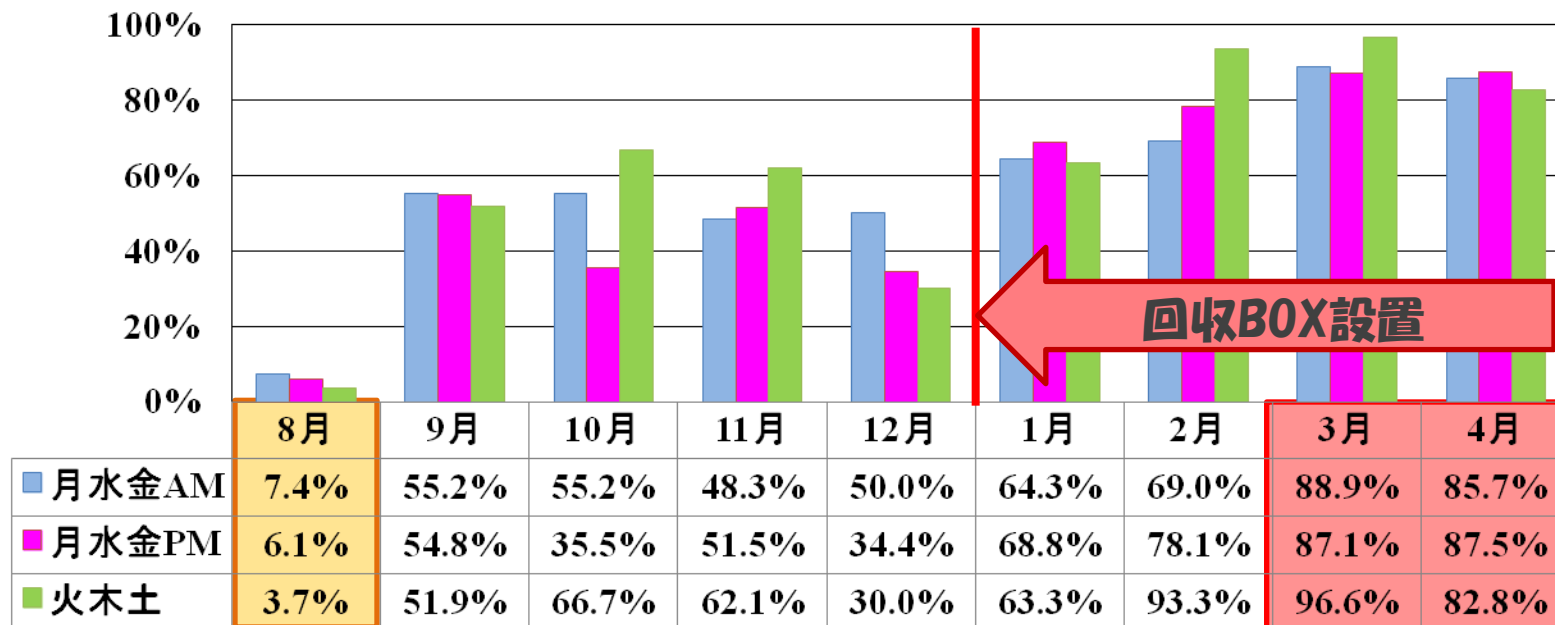
回収BOX利用率と更新率の推移



回収BOXとメッセージボードの設置により、更新率は急激に上昇した。
回収BOXも設置を開始してから4カ月で、全体の約50%が利用する結果となった。
回収BOX利用者からは、「更衣室で提出できるのがいい。」
「更新日が分かりやすくなった。」との意見があった。

回収BOX設置後の 声掛け前の自発的な更新率

初回日のカード更新率



回収BOX・メッセージボード設置後2ヶ月後(3月)から、月初め初回日のカード更新率が、全てのクールで80%を超えた。更新を促す声掛けを行なう前に、自発的な提出が多くみられるようになった。

また、回収BOX・メッセージボード設置後からは、月水金PMの更新率もUPした。

患者さんの声



声掛けについて

- ・最初はスタッフにしつこく言われるから持ってくるようにしていたが、だんだんと持っている事が普通になってきた。

災害カードについて

- ・カードの記載内容は、自分自身では覚えきれないので持っているとう安心感がでる。
- ・保険証と一緒にしているので、別々にすると手間がかかる。


回収BOXについて

- ・更衣室に回収BOXを置いてくれた事を出し忘れなくなった。
- ・回収BOXやメッセージボードがある事で「あっ今日だった！」と思い出せる。
- ・箱には気が付いたが出すのが面倒くさい。

緊急連絡カード改善点

(医) 清陽会 ながけクリニック ☎703-8205 岡山市中区中井454-1	
● スタッフ携帯	090-9〇〇-2〇〇
● 透析室直通	086-2〇〇-6〇1
● 災害用伝言ダイヤル	171→2→0862〇76〇1
※ 尚、緊急時などはお近くの救急外来を受診してください。 診療時間内は透析室にご連絡ください。	

災害伝言ダイヤルの
使用法追加

《緊急連絡カード》			
※以下記載の条件で血液透析を受けております。			
氏名	【氏名】	性別	【性別】
血液型	【血液型】	RH	【RH】
透析条件			
治療サイクル	【治療サイクル】	治療時間	【治療時間】
治療方法	【治療方法】	透析器	【透析器】
DW	kg	バスキュラー	【バスキュラー】
抗凝固剤	【抗凝固剤】	初回	【初回】
持続	【持続】	持続	【持続】
注意点	【注意点】		
			

QRコードの追加

緊急連絡カードの改善点として、
災害時伝言ダイヤルの使用方法をカード前面に追加した。
また、カードサイズで作成しているため、記載出来る情報量が限られていた。
そこで、携帯電話などで読み込めるQRコードを使用することで
カードへの情報収納力をアップさせた。

QRコード収納情報

スマホで読み取って見て下さい!!



現在、検討中であるが、
要最低限の内容をカード上に記載し、
緊急受け入れ先での透析時に参考になる
と思われる情報はQRコードへ収納した。

原疾患 糖尿病性腎症
シヤント 左前腕 自己血管
穿刺状況 穿刺困難あり、エコー下穿刺
止血状況 止血バンド使用
感染症 HBs(-) HCV(-) 梅毒(-)輸血歴(-)

HD後週3回 トレシーバ9u
毎週月曜日 トルリシティ
ADL 歩行不安定にて透析後車いす使用

注意事項 除水3L以上で血圧低下あり

2019/05/05更新

QRコードに収納できる文字数は、規格では漢字・かな(Shift JIS)で最大1817文字である。
カードサイズではQRコードが小さいため、携帯電話で読み取れる文字数には制限があった。
上記の情報の文字数は159文字(スペース含む)だが、
300文字程度が限界のように思われる。

考察

- 緊急連絡カードの更新率を上げるには、まず必要な事だと認識してもらったことが重要である。比較的若年者は、災害に対しての意識が低い傾向があるため粘り強い説明が必要である。
- 声掛けだけでなく、更新の案内、院内広報誌、メッセージボードによる視覚的な情報や、回収BOX設置、災害時伝言ダイヤルの使用方法の説明などいくつかの方法を合わせて取り組むことで、スタッフ、患者ともに意識改革につながったと考えられた。
- 緊急連絡カードは、財布や貴重品袋で保管されていることが多く、それらを保管する更衣室で提出可能とする回収BOXは利便性に優れ更新率アップにつながったと思われる。
- 今後、カードに記載できる情報量には制限があるため、QRコードを使い、災害時により活用できる緊急連絡カードを作成していきたいと考える。また、定期薬の情報には院外処方箋のQRコードの活用を考慮したい。

結語

- **災害意識の改革や緊急透析カードの更新率アップには、声掛けのみだけでなく、メッセージボードや回収BOX等視覚的な方法を組み合わせることが有効であった。**
- **今後、QRコードを使用して災害時により活用できる緊急連絡カードになるように改善を行っていききたい。**

日本透析医学会
COI 開示

筆頭発表者名： 鈴木 小由起

演題発表に関連し、開示すべきCOI 関係にある企業などはありません。